

2023_1127「松代・皆神火山（写真）」日々の理科 3399号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

長野での研究会は、午前中長野市郊外の松代地区（旧長野県松代町）の蛭川（ひるかわ）の水生昆虫の観察会から始まりました。長野駅から現地まで車に乗せてもらって、紅葉の風景を楽しませていただきました。

途中、円錐形の形の良い独立峰が見えました。このあたりはフォッサマグナの東の縁にあたるので、私は海底の付加体堆積物が浸食をまぬがれて、独立峰として残ったものだと推定しました。ちょうど甲府盆地の塩山（しおのやま）と同じようなものだったのです。しかし、車を運転していた小学校の先生の話では、これは「火山」だといいます。しかも、付近の大きな火山の「側火山（寄生火山）」ではなく、独立した火山だと聞いて、二度驚きました。

この山は「皆神山（みなかみやま）」といって、標高は659m、麓からの比高はわずかに280mしかありません。独立した火山としては極めて小さな部類です。今から約30万年前に形成された、安山岩質の「溶岩ドーム」で、溶岩や碎屑物の噴出はほとんどなかったと考えられています。皆神山は「水上山」と書く文献もあるそうですが、私はこの説が正しいと思っています。山体の下部に湖水堆積層があり、山頂部には礫層も見つかっているからです。また、1970年前後に起きた有名な「松代群発地震」は、この山の直下が震源だったそうです。

太平洋戦争末期にはこの山の麓に大本営や皇居の移転計画がありましたが、未完成のまま終戦を迎えました。多くの地下壕が掘られたので、今でも残っているそうです。山頂には自動車でも登れるそうなので、次回は安山岩の観察も含めて、ゆっくり観察したい山です。

(2023年11月下旬／長野市松代町)

